

6年生 | 「作文指導」

「5W1H」で整った作文を

クラスでは毎日の自学ノートに200字程度の日記を書かせています。日々赤ペンで「返事」を書いているうちに、「何を」したのか、「どこで」したのかなど、状況をつかめない文章に出くわすことがよくありました。これはマズイと思い、1時間で「5W1H」の指導を試みました。

1. 授業の実際

まず、小黒板で以下の2つを提示します。

A わたしは食べた。

B わたしは朝、家でパンを食べた。時間がなかったから急いで食べた。

一斉音読させた後で、いきなり発問です。

「AとBではどちらが整っていますか？ ノートに書きなさい。」

挙手で人数を確認します。分布はAが4人、Bが17人でした。それぞれに理由を問いながら話し合いをさせます。

- ・ Aは何を食べたか分からないし、何だか不足だ。
- ・ Bは整った文でないような気がする。

と言った意見が出されました。一見してBはどうも文の続きが良くないと感じた子が出てきたのです。

「整う」とはどういう事なのかを確認させる必要があると思い、辞書を引かせました。辞書には「欠ける所なくきちんとそろおう」とあります。これで4人は撃破されました。次に、なぜBが整っていると言えるのかを教えました。

わたしは 朝、 家で パンを 食べた。
(Who) (When) (Where) (What)

時間がなかったから、 急いで 食べた。
(Why) (How)

Bは「だれが」「いつ」「どこで」「なぜ」「どのように」が書かれているので、情報として整っていることを示し、これらのことを「5W1H」と呼ぶのだと教えました。

そして、5W1Hについてワークシートで確認した上で、3～4人のグループで家庭科で行った調理実習について実際に書かせました。出来上がった作文を小黒板に写し全体で検討します。その後、自由な題材で一人一人に書かせ、下のワークシートを使って整理をし、出来上がったものは私が確認し、板書させました。

子どもたちはゲーム感覚で喜んで書きました。授業の感想でも、「ためになった」「これから生かして作文を書きたい」「役に立つと思う」など好ましい評価を得ました。

5W1H	意味	自分でやってみよう
When	いつ	
Where	どこで	
Who	だれが	
What	なにを	
Why	なぜ	
How	どのように	

2. 成果と課題

1時間で「5W1H」を全員に習得させることは困難です。しかし、文章を書き、何かを伝えようとするときの基準を知ることは今後作文を指導する上で活用できます。また、「書くこと」に限らず、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の指導にも活かし、定着を図っていきたいと考えています。

授業後の日記に「5W1H」が意識された文章が増え、ひとまず有意義であったと確信しています。